

「現代版家守」として 熱海を再生する



株式会社machimori 代表取締役の市来 広一郎氏

今では活気のある熱海・銀座通り

100年後も豊かな熱海を！

まち・ひと・しごと新聞

第6号 発行

三島信用金庫

駿東郡長泉町下土狩96-3

055-973-5730

製作

県立熱海高校報道部

県立沼津東高校新聞部

県立菰山高校写真報道探究部

日本大学三島高校新聞部

協力

静岡県東部地域局

株式会社 machimori

熱海 熱き思い

市来氏は熱海で生まれ育ち、東京の大学へ進学、就職したが、急速に寂れていく熱海を何とかしようという思いで、28歳の時に熱海に戻る。様々な活動を経て、2011年に株式会社machimoriを設立した。市来氏は社名について、「江戸時代にあった職能の、家守（やもり）から取りました。」と語る。

株式会社machimoriは、街の再生、特に熱海の市街地を中心に再生する会社である。会社の目標や今後の熱海についての考えなど代表取締役の市来広一郎氏に聞いた。

第三の居場所を目指して

machimoriは、百年後も豊かな街を作ることとをミッションとしており、第三の居場所（サードプレイス）としての熱海をビジョンとして掲げている。

サードプレイスとは、住む場所でも働く場所でもない、第三の居場所の事で、カフェや居酒屋などを指し、このサードプレイスがあることで、人との出会いがあつて日常が楽しくなり、人として豊かに暮らせる。熱海全体がこのような場所になることをmachimoriは目標として活動している



市来氏と熱海高校報道部員

市来氏の高校生に対する思い（以下全文）

「私が高校生に思うことは、今をちゃんと生きてほしいということ。私の高校生の頃からの座右の銘は、“今を生きる”です。今楽しければそれでいい、のではなくて、今本当にやりたいことを本気でやればいいという意味です。やりたいことを見つけることは、一見難しいことかもしれませんが、自分の中から湧き上がってくる感情を大切にしてほしいと思います。何か感じたり、見つけたりしたら、ちょっとでも一歩を踏み出して、それを積み重ねることが将来何をやりたいのかを見つけること

と市来氏は言う。市来氏は仕事をすることで大切にしていることについて「まず、一番大切にしているのが『BE THE CHANGE』という価値観です。」と言った上で、「何かを変えようと思っ



市来氏に取材する1年生の菊入君

BE THE CHANGE 変化を体現

問題を解決しようと思つた時、他人にすると問題解決しない。ちゃんと自分事にする。まず自分を変える。自分を変えなければ、周りも変わらないし、問題も解決しない。だから自分を変えよう。これは自分自身が大切にし

てきたことです。」また、市来氏は仕事のやりがいについて「街づくりをしていると、やったことの手ごたえをすごく感じる。例えば、熱海銀座は10年前はシャッター街だったのに、今はシャッター

今を生きる 高校生に期待する事

につながるのではないかと思います。私は、大学生のころ、バックパッカーとして27か国に行きました。そこで出会った人や触れた異文化などの刺激は、今の仕事に十分に生きています。そういう風に旅をするでも何でもやりたいこと、今できることをやって、小さな一歩を踏み出してほしいです。仕事柄、色々な高校生に話をする機会がありますが、話をすると、街づくりにとても興味を持ってくれます。昔熱海がさびれていたことを知らなかった高校生もいます。熱海出身ではない高校生にも話をする機会がありますが、自分の街を見直してみようと感じてくれて、それをとても嬉しく感じています。」

「一方で『新しい取り組みは周りから理解されないし、商売をやるのは難しいと本当に痛感した。』と苦労した

が一つもない。久しぶりに熱海を訪れて、熱海変わったねと言われることも嬉し。やっ



これから変化していく南熱海の風景

しかし、熱海の中心地に比べ、南熱海はまだまだ空き家率が高い。このことに関して市来氏は「南熱海も宿泊のお客さんは増えているが、商店街は壊滅的な状況。」と課題を言及した上で「人によって

例えば、旅館がモンブランの店を出している。10年前は何か始める雰囲気ではなかったが、今は何かをチャレンジするには面白い街になってきている。

点も語った。この十年で熱海の雰囲気はともに変化した。観光ではあるものの若い人が増え、地元の経営者の中で新しいことを始める人も増えた。

これからの熱海

編集後記



は南熱海を移住先に選ぶ人もいます。実際に、南熱海を拠点に起業する人もでてきているし、これから変わっていくのではないかと語った。まもなく網代の街づくりの会社が立ち上がる。温泉街での繁栄と衰退どちらも経験した熱海にとって今までとは違ったやり方で街づくりをする市来氏の民間の取り組みは熱海にとつてなくてはならない存在になるだろう。

今回、取材させていただいた株式会社machimoriでは、寂れていた地元熱海をどうにか変えたい、活気のある街にしたいという市来氏の強い思いを感じられました。話を伺って、我々高校生ももうすぐ社会に出る身として、熱海に限らず地元が今後どうなっていくのか考えるべきだと思いました。今回の取材にご協力いただきありがとうございます。 「一面担当」 熱海高校報道部



▲静岡県からアクセス

▲福岡県からアクセス

※IPアドレスを利用して、アクセスした場所を調べ、その場所によって会社のHPの画像が変わっている

株式会社Geolocation Technologyは、インターネットに取材を行って、着想してから起業までの苦労や、高校生へのメッセージを伺った。

私たちの生活を支える

具体的には、IPアドレスに位置情報、組織属性などの情報を組み合わせたデータベースを作成し、不正アクセス防止や、利用者の地域にあった情報を表示するサービスを各社に提供している。

IPアドレスで未来を変える。

株式会社Geolocation Technology

リモートワークを推進する

Geolocation Technology内では、業務の多くがリモートワークで進められている。実際、特別な理由がなければ、出社することは認められていないという。リモートワークにはどのような利点があるのか。最大のメリット



▲ワークブース

トは経費の大幅な削減であるという。出社する社員の人数が減ったことで、オフィスの広さが縮小され、施設管理費の削減につながったという。オフィスには、出社時に電話や他の会議の音が気にならない、ワークブースが設置されていた。

その会社で働いていた時、静岡の官公庁から『静岡県のHPにアクセスしている人の、地域割合を教えてください』との要望を受け、『SURFPOINT』というIPアドレスを利用してデータベースを作成したそうだ。その後、当時勤めていた会社を離れて、2000年2月に現在の会社を起業した。「学生時代の趣味が起業につながっていますね」と語った。



▶丁寧な質問に答えて頂いた

社長の原点

社長の山本敬介さん、なぜこの会社を立ち上げたのか尋ねた。「子供のころからテレビゲームが好きで少年でした。沼津市立沼津高等学校を卒業して、将来の進路に迷っていた時に、『コンピュータも学べるよ』と自衛隊の人に誘われた事を



▶山本 敬介さん

きっかけに、陸上自衛隊の基地通信隊に入隊しました。その後、より深く学ぶために、インターネットプロバイダの会社に就職しました」と話した。

山本敬介さんの経歴

小学校時代	ボーイスカウトに通う・TVゲームにはまる
高校卒業後	「コンピュータが学べる」という理由で陸上自衛隊の基地通信隊へ入隊
1996年	静岡インターネット(株)へ転職 SURFPOINTのアイデアを思いつく
2000年	退職、現在の会社の前身となるサイバーエリアリサーチ(株)を設立
2017年	社名を現在のものに変更。また2021年に福岡証券取引所に上場。

好きなことを自分の仕事に

自身が学生時代に経た、ゲームの趣味が関係しているという。このように、自分の話を聞いた。山本さんは「小学生の時から、起業のきっかけは「小学生の時から、起業のきっかけは「小学生の時から、起業のきっかけは」だ。一見関係ないように見えることも将来の仕事に影響を与えることもあり、さまざまなことを経験することが重要であると感じた。



編集後記

今回の取材を通じ、さまざまな不安がある中で、時代のニーズに合ったシステムを生み出し、それを実際に社会に応用していく山本敬介社長の行動力に非常に感銘を受けた。また、リモートワークの割合を高めることでさまざまなメリットを生み出し、業務を円滑に進め、さらには業

【担当】沼津東高校新聞部

副業としての地方創生

三菱地所 神田主税さん

今回、葦山高校写真報道探究部は、三菱地所に勤める傍ら、地域創生などに関わっている神田主税さんに取材を行った。コロナ禍での働き方の変化や地域活性化について話を聞いた。



～プロフィール～

神田主税（かんだ ちから）さん

・三菱地所エリアマネジメント企画部
・加和太建設株式会社ことづくりパートナー

NTTデータを経て、三菱地所に入社。現在は三島市在住。副業としてLtG Startup StudioやNPO法人みしまびとに携わり地域活性化を行う。

やりたいことをやる

働き方においてコロナ禍で変化したことは、テレワークが増えたことです。今までは理由がある時にテレワークしていましたが、オンラインミーティングも一般化しテレワークの頻度が増えています。毎日が出社しなくなりましたが、都心に住む必要がなくなったことで、

オフィスと居住地の位置関係は密接ではなくなってきたと感じます。働き方が多様化している中で、自分のキャリアを自分で考えて選択する、パラルキャリアの人が増えていてほしいです。大企業に就職するのも良いと思いますが、自分のやりたいことをやることも大切です。その中で地域に貢献できれば良いと思います。

地域との関わり

私は、住んでいる地域を盛り上げたいという思いや、自分の目の届く範囲で仕事をしたという思いから、地域創生に関わり、都市と地域とを繋ぐような活動をしています。働き方が変化している中で、地域との関わり方もいろいろな形があります。遠い場所においても地元愛が残っていることができれば、地域のことに関わることができると思います。

また、私は街に関わる人を増やす、関係人口作りを重視していま

廃幼稚園が交流の拠点に



幼稚園の面影を残す未来研究所

みしま未来研究所は神田さんにも参加するNPO法人みしまびとが運営する施設だ。誰でも借りられるコワーキングスペースやレンタルスペースなどがあり、落語の講演会

やマルシェなどのイベントも行い、地域の交流の拠点となっている。この施設は旧三島市立中央幼稚園を改装したものだ。1889年に設立された同幼稚園は利用者の減少により2010年、閉校し廃墟となっていた。長年愛された場所に再び賑わいを取り戻したいと、加和太建設が同施設を三島市に提案し、2019年よりNPO法人みしまびとが運営を行っている。そのため、施設内には幼稚園で使われていたロッカーや黒板も活用されている。

す。また、地域の魅力の発信は人が軸となると思っています。高校生には、地域の活動に参加するを増やしていくことで、

く、様々なことに参加して様々な人と出会い、多くの人の価値観に触れてほしいです。

就職後も地元に住居を

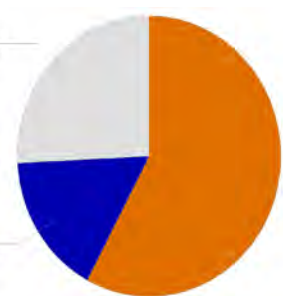
今回、この紙面を制作して分かったのは新型コロナによってデジタル化やテレワークの普及によって働き方が大きく変化したことだ。今回取り上げた神田さんも新型コロナで働き方が変化した一人だ。神田さんは三島市に住みながら東京にある三菱地所に勤め、基本的にテレワークを行って

いる。時間に余裕ができた神田さんは積極的に地域活性化を行っている。神田さんの、「Tで起業する人を支援したり、シェアオフィスの運営に携わったりする取り組みは数々のメディアに取り上げられ、注目を集めている。

新型コロナウイルスでテレワークが普及し、LINEやメルカリ、ヤフーなど、居住地を問わない企業も出てきた。それにより、東京や名古屋の企業に勤めながらも東部、伊豆地域に住み続けることが可能になった。そんな時代だからこそ、就職後も地元に残り、東部、伊豆地域を盛り上げる力となることを選択する若者が増えている。

編集後記

私たちは三島信用金庫さんの協力の下、三菱地所の神田主税さんに取材を行いました。テレワークの増加で居住地と働く場所との関係が薄くなっていることや、居住地に関係なく、地元に関わる方法があることについての話は、私たちにとても新鮮で、多くの刺激を受けました。今回取材に協力してくださった方々に、この場を借りてお礼申し上げます。未熟な点も多いですが、楽しんでいただければ幸いです。



▲テレワーク導入率

世界に羽ばたく企業を支援



三島大社前にあるLtG

LtG Startup Studioは神田さんが創業支援サポーターを務める施設で、2021年11月に大社の杜みしまをリニューアルし、オープンした。LtGはLocal to Globalの略称で、三島から世界に羽ばたく企業が生まれることを目指し創業の支援を行っている。創業を支援するアドバイザーは、投資家や銀行員、会社の社長と様々だ。また、施設内の会

議室やオフィスはガラス張りとなっており、開放的で都会的な空間となっている。現在（1月下旬）では4人の起業家が入居しており教育ビジネスやAIベンチャーなどの先進的な事業を行っている。



LtGの展望について取材

コロナで変わる働き方 まとめ

導入予定なし: 25.8

導入済: 57.8

導入予定: 16.4

【三面担当】
県立葦山高校
写真報道探究部



「おいしい・幸せ」を届ける

三島市にあるELFIE GREEN株式会社は完全屋内型水耕栽培による野菜の生産、および販売を行っている会社だ。

「もつと、『おいしい』『しあわせ』を食卓へ。」を使命とし、「地域の子どもに安全な食べ物を」という思いのもと、10年前に創業した。

また、地域に愛される湧水を使用したり、雇用を創出したりするなど、地元愛も情熱で輝く企業だ。今回は今年から設立された三島市の工場の見学を行った。

安心・安全の
地物野菜

—
E
L
F
I
E
G

RENN株式会社」は、子どもでも食べやすいような野菜を作ることを目標に、レタスの完全室内型の水耕栽培を行っている。

では、太陽光発電や、高断熱・高機密を取り入れ、衛生面にも力を入れていく。

ELFIE GREENは、安心安全なレタスを地物野菜として発信している。

研究を重ねたLED

射した場合、成長を促進する働きがあるそう
だ。このような研究か
ら同社は、照射時間や
色の調整により、野菜
が嫌いな子どもにも食
べやすく、おいしいレ
タスを生産している。

また、彩りが良くな
る赤色の葉のレタスを
作るため、青色の光を

また、おいしいレタスを届けるため水耕栽培に必要な水にもこだわりがある。使用されているのは地元柿田川の水や手作業へのこだわり

ないと
育ちにくいので、地下
水は毎日新しいものを
汲み上げて使っている
ELFIE GREEN
ENではレタスの収穫
の作業は、手作業で行
われている。パートの
人たちが一つ一つ丁寧
にレタスを根っこから
切り離していく。

少人数の運営体制

いからだ。

少人数体制で会社を運営しているところにも企業の特徴が出ています。少人数のため、広報や営業などの担当分野を分けることはあま

し続けることを念頭に活動している。楽しくないと仕事は続けられないと思う。自分で新しいことに挑戦するのは大変なことだが、挑戦をすることにやりがいを感じている。他に、できないことは人に頼ることで新たな発見もある」と自身の経

諦めずに、新たな発想を生むことができる。また、コミュニケーションを図ることができ、人は仲間と協力できる。柔軟に人と接することができると、他の人に頼ることができて自分自身の進歩につながる」と教えてくれた。

最後に、今後の目標

SELFIE GREEN株式会社

地物野菜で地域創成を担う



▲栽培へのこだわりを語る近藤さん

やり切る力に着目

近藤さんに仕事を
する上で大変なことや大
切にしていることにつ
いて聞くと、「日々挑戦
し続けることを念頭に
活動している。楽しく

ニケーションをとる
とができる人は必要だ。
やり切る力があると、
企画などをやる時には
諦めずに、新たな発想
を生むことができる。

ない」と仕事は続けられないと思う。自分で新しいことに挑戦するのは大変なことだが、挑戦をすることにやりがいを感じている。他にも、できないことは人に頼ることで新たな発見もある」と自身の経験から教えてくれた。

さらには、学生時代には、頼れる仲間を見つけることも今後の人生につながるという。

次に、どんな人材を求めているかについて近藤さんは「やり切る力があることやコミュ

ニケーションを図ることができ、人は仲間と協力できる。柔軟に人と接すること、頼ることができて自分自身の進歩につながる」と教えてくれた。

最後に、今後の目標について聞くと近藤さんは「最終的には、全国や全世界の人たちに自分たちの野菜を知ってもらいたい。それできっかけに、地元を盛り上げることにもしっかり貢献していきたい」と希望を語った。

潜入！
商品開発の現場

ELFIE GREENでは、新たな品種の栽培にも着手している。取材した際には、販売検討中の葉物類の『オービタル』と『ワインドレス』、根菜類の二十日大根を試食させて頂いた。どの野菜も赤く彩りが良いことから、レストランやホテルからの需要が高いという。

しかし、赤系に色づく野菜の工場栽培は他の野菜の栽培に比べると難易度が高く、特に野菜の見た目において大事な色彩が悪くなってしまうことがあるというこのことに深く関連するのがLEDライトだ。『ワインドレス』という品種では青いLEDを照射することでその名の通り、ワインのようなきれいな赤色が出る。近藤さんは「照射するLEDの色の違いによって、成長の速度や味に影響するさまざまな色の光を照射し、日々、お客様の要望も取り入れながら、おいしい野

「菜作りに励んでいる」と話した。

また今後、会社の商品を使用したオリジナルレシピを会社のホームページに掲載することを検討している。「当社の野菜をもっとおいしく手軽に楽しんでもらいたい」という思いから、現社長の近藤さん自らの手でレシピを監修したという。「レシピの制作期間中は1日3食ともにレタスを口にしていた」と話した。

レシピを制作するのに工夫した点や難しかった点について伺うと、「料理に凝りすぎると、お手頃に作れる感じがなくなってしまうため、いかに簡単においしく作れるか、紹介するレシピをたくさんの中から絞るのにも苦労した」と答えた。

レシピの公開日は未定だが、誰でもおいしく簡単に食べられるレシピだ。

ぜひ、レシピを確認して調理してみてほしい。

同社の研究によると
従来の青色の光を照射
した場合、レタスは苦
くなる。赤色の光を照



▲工場内での栽培の様子

タスに傷がつかなくなる。その結果、レタスは長持ちして、時間が多少経ってしまっても新鮮な状態で食べてもらうことができる」と語った。手作業にしているのはより綺麗に野菜を届けたいという思

編

編集後記

今回取材させていただいたELFIE GREEN株式会社様は、地元のごだわりが詰まった野菜の栽培で、地元を盛り上げていっていることが分かりました。

この紙面を通して多くの学生に地元企業の魅力を知ってもらえたら幸いです。取材に協力していただいた多くの方々へ深くお礼申し上げます。

【4面担当】
日本大学三島高等学校

石田悠真

杉山うの

村越有太

石井大羽

星月風花

望月屈在

大西駱